

開成の杜

第77号 ●2008年9月29日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口富左



オープンキャンパスで公開した屋上菜園

(撮影 山口郁生)

「理解」「実践」「その確認」等、学ぶことへの簡便な習得と、必ず身につくもので、そこより、新たな境地へと、個人としても前進、充実出来ること確かである。

「お仲間」：若い生命の充実と、学園教育への理解と、比較的近年、身辺の要件等を担うの前進、更に新分野へと展開を図り得れば、それは若者の行為の自信と、今日的学修へとしての自己充実へのまたとない成果を得る素因となる。

校歌の示す歌詞や、歌曲を基にして、前回よりの受け継ぎで「開成の杜」の第七七号を発刊する。：「善きかな」と喜び、期待を持つ。

ここも世界の空の下
この学びやに
人類の 光 光
光をかざす
(学園校歌の一節)



学園長 関口 富左

知は「想」を呼び、「創」を産む。
―杜に聴く―

第七七号「開成の杜」は、学園の現状を具に表現し、出来る限り身近な要因等、簡潔に理解に至る対応との素因として、この「開成の杜」編集内容の把握を要とする。

分厚い貴重な「学園史」は、十年毎に記念刊行の学園叢書として史的状況提供の宝典であるが、時の推移に消耗し易い今日の状況と、この勉学性の資料提示が、今日提示の第七七号「開成の杜」として身近である。

とはいいながら、史的要素の在る本誌(第七七号)は、学習内容と関連して、現状理解に、利用に親しみ易く、便益性を有することの含みも多く、特色として、十分に内容理解を図ることが肝要である。

この「開成の杜」は、親しみをもって、重厚かつ身近であるので、一教科の視点を得るに活用することが善い。近況理解と学生生活理解には貴重な小誌である。

編集のご苦勞を謝し、簡便な資料といえども、上手な使い方こそ、学びの深部と学園の理解に至ることである。

学生・生徒の資質を伸ばす学園教育を主題に

第四十五回学園教育充実研究会ひらく



来賓する関口学長

第四十五回学園教育充実研究会が八月十九日、二十日の両日、芸術館大教室を主会場に、学園全教職員の参加をもって開催された。

本研究会は昭和四十四年に学校法人郡山開成学園の建学の精神に基づき発足して以来、学園教育の充実と発展を目的に継続的に教育の研究を積み重ねてきたものである。

今年度は、本来学生・生徒たちが持っている学力的資質および感性的な資質を充実させるためには授業の実践をいかにあるべきかに視点を据え、「学生・生徒の資質を伸ばす学園教育(二)」を主題とし



講演する大高孝氏

た。講演では、近年環境教育の取り組みへの社会的要請も高まっている現状を踏まえて環境教育がテーマに選ばれた。

初日の全体会では、はじめに関口富左学長が「今日の社会の変化の中で、教員としても多様な問題を考えなければならなくなってきた。大高先生のご講演を拝聴し、研究会を通して、よりよい教育、授業を達成できるよう研究を重ねていきたい」と挨拶した。

続いて筑波大学大学院の大高孝教授により「環境教育の新たな展開と課題―ESDとしての環境教育と授業づくり」と題して講演が行われた。大高氏はまず環境の概念について整理した後、環境教育や環境教育政策の近年の動向を明らかにしながら、「環境と持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)」が近年の環境教育の国際的枠組みとなっていることを指摘。従来の環境教育が個人の態度変容に焦点を置くトップダウン型教育であるのに対し、ESDは社会・経済構造とライフスタイルの変化に焦点を当てた、参加型の学び重視の教育であることを指摘した。その上で日

生徒が考えているとは限らない。生徒の考え方、見方を知って教えることが大切だ」と述べた。

その後、授業実践発表が行われた。まず大学人間生活学科・北川



実践発表を行う小松田教授



実践発表を行う小松田教授



実践発表を行う北川教授

本の子どもの環境に関わる意識や行動様式についてドイツの子どもの比較を含めながら調査結果を概観し、さらに環境教育のあり方、そして広く授業づくりの考え方にについても触れ、「教師の期待通りに

主教授による「住生活概論」「開成の重要性について」「子供空間について考える」が、続いて短期大学部家政科食物栄養専攻・近藤榮昭教授・小松文子准教授による「給食実習Ⅰ」「献立作成」、さらに附属高等学校国語科・相楽旬子教授・宗形盛夫教授・坪井研二准教授による「国語科 総合演習」「卒業研究・中間発表プレゼンテーション」感性を磨き学理的態度を養う総合演習の授業」の報告が行われ、それぞれ本研究会に先立って行われた公開授業の内容を踏まえながら、授業実践ならびに学生による授業評価についての報告が行われた。

二日目は分科会での連日研究が行われ、十二の分科会に分かれて今回の講演や授業実践発表の内容、日々の授業の課題点などについて活発な意見交換を行い、引き続き全体会でその成果の一部が報告された。

最後に関口学長から「講演、および各発表を通してみて、今回の成果は全体的に貴重な資料となるとともに、今後のための準備にもなったと思う。こうして各自の努力が集積され、四十五回に至るまでの歴史として集積されていき、それが今日に至ってそれぞれの教育を支えていると考える。今後とも着実に、研究会としての歴史を積み重ねていきたい」との講評があった。そして学園の一人ひとりの教職員が能力を発揮しながら互いに協力し、学園の伝統と研究成果を継承し充実した教育活動を行っていくことの大切さを熱く語りかけ、本年度研究会を締め括った。

第三十二回中学校・高等学校教育連けい研究会は、六月二十七日、県内外の中学校から先生方をお迎えし、「一人ひとりの個性を伸ばし、各人の特色を発揮するために」のテーマのもと、「中学校と高等学校が互いに連けいし合い、生徒一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生涯を通じて自己を磨きうる資質を養う教育を目指す」ことを目的として行われた。

午前中は、本校のそれぞれのコース・学科の特色ある授業が公開された。その後、全体会に引き続き早稲田大学教育学部教授石常世先生から「今、改めて考える教師の使命」の演題で講演があった。教育課程改訂の骨子と教師が取り組むべき課題が提示され、示唆に富む講演であった。

午後からは、公開授業と講演、および中高の授業や生徒指導、心の指導等に関して意見を交換した。大きな教育の変革期に、中学校と高等学校の六年間を見通した連けい教育の重要性を改めて認識し、今年度の研究会は幕を閉じた。



挨拶する副学長

故防止を呼びかけた。

就職部から二宮部長補佐が就職率はこの春も大学で九六%、短大で九一%と好調を維持しており、さらに就職活動への支援を強化したいと述べた。

方部会はこの後、各学科ごとの個別面談に移り、アドバイザーの教授らが相談に応じ助言した。

個性を伸ばし特色を発揮するために 第三十二回中高教育連けい研究会



本校教員と意見交換する参加者

富む講演であった。

午後からは、公開授業と講演、および中高の授業や生徒指導、心の指導等に関して意見を交換した。大きな教育の変革期に、中学校と高等学校の六年間を見通した連けい教育の重要性を改めて認識し、今年度の研究会は幕を閉じた。

教育方針で理解深める 平成二十年度方部別教育懇談会開催

挨拶する副学長

大学・短大 合同説明会 開催！

平成二十一年度入学者選抜実施要項発表

二十一世紀を担う女子高等教育充実を図る本学の平成二十一年度大学・短大入学者選抜実施要項及び教育内容等説明会が七月四日、建学記念講堂に県内外の高校から進学指導関係の教諭七十三名の出席を得て開催された。

初めに、関口富左校長から本学の教育方針が示されたあと、各学科主任が教育内容を説明した。

◆大学・人間生活学科では、学生の勉学の状況を紹介します。出席率がよく受講態度も真剣で、教師の誠意ある指導が学究へとつながっていると説明。◆食物栄養学科からは、管理栄養士国家試験の難易度は高くなっているが、しっかり勉強する学生に対しては、教師も真

剣に対応し成果を上げている。卒業生の約七〇％は管理栄養士職を生かした事業所へ就職していると報告。

◆短大・家政科福祉情報専攻からは、初めて卒業生の中から介護福祉士が誕生したことが報告され学生の努力を称賛。◆家政科食物栄養専攻からは、現場に強い栄養士の養成に努める方針が。◆幼児教育学科からは、幼稚園教諭、保育士への強い目的意識を持った学生がほとんどで、活気ある学科と紹介。◆生活芸術科からは、二年

から卒業制作に取り組んでいるが、本年度は県総合美術展に五入選、入賞するなど公募展で好成績を残していること。◆音楽科は、個人指導の充実で人間教育にも力を入れており、就職は音楽関係以外の銀行等の一般企業にも採用されている。就職率は八五％以上であること。◆文化学科からは、卒業研究は四百字詰三十枚を課題とし、地に足の着いた学問のあり方を体験させていると、それぞれから報告があった。

平成二十一年度入学案内概要

◆募集人員

【大学】

本大学は、本学家政学部人間生活学科及び食物栄養学科を基礎に、人間生活学研究科人間生活学専攻の修士課程（二年）、さらに博士（後期）課程（三年）を設けている。

○人間生活学研究科

修士課程一〇名（含昼夜間講義）。博士（後期）課程三名。

【大学】

家政学部・人間生活学科五〇名（生活総合コース・建築デザインコース二〇名・福祉コース三〇名）。家政学部食物栄養学科八〇名。

【大学三年生編入】

本大学では、両学科とも三学年への編入を認めている。募集人員は

位を得ることが出来る。二〇名。

◆選抜方法

推薦生（特待生・指定校・公募）
特別生（専門・総合学科／高等専門／専修／社会人／高認合格／外国人留学生／帰国子女）
高大連携生（本附属高校生）
AO生（自己推薦）
一般生（入試センター試験併用可）

◆選抜日程

（別項参照）
◆AO生選抜日程
1期生募集終了。
2期生エントリー受付期間
9/29（月）～10/21（火）
面接日 10/25（土）
合格通知 10/29（水）発送
3期生エントリー受付期間（※定員に達している場合は実施しない）
1/5（月）～1/26（月）
面接日 1/31（土）
合格通知 2/3（火）発送

附属高校教育内容説明会
附属高校の募集要項を発表

県内の中学校から進路指導関係の先生方を多数お招きし、平成二十一年度の教育内容を説明する会が、九月十二日、建学記念講堂にて開催された。

初めに関口富左校長が「女性の高等教育の普及と向上」をめざして開学した本学の歴史と特性を生かす女子教育の重要性を述べた。

次いで、普通科・音楽科・美術科・食物科の紹介と各学科の特徴や資格取得についての説明があった。

その後、安齋副校長から平成二十一年度の本校入学者選考事項についての説明があり、さらに大学から山田副学長が郡山女子大学と

同短期大学の概要を説明した。

【本校入学者選考の概要】

◆募集人員 三三〇名（女子のみ）

☆普通科二四〇名（総合学芸コース七〇名・スポーツ健康系コース

三〇名・人文系コース一四〇名）

☆音楽科二〇名 ☆美術科二〇名

☆食物科四〇名

○選考書類 推薦生（中高連けい生・AO生・特待生）学力選考生

○出願期間（必着）

特待生 十一月十一日～十二日

中高連けい生 十二月四日～五日

AO生 十二月四日～五日

学力選考生 二十一年一月八日～九日

○選考日

特待生 十一月十七日（月）

中高連けい生 十二月十二日（金）

AO生 十二月十一日（木）

学力選考生 二十一年一月十六日（金）

平成21年度 選 抜 等 日 程

	選抜方法	願書受付期間	選抜日	合否通知発送日
大 学	特待生・指定校推薦生 公募推薦生Ⅰ期・ 特別生Ⅰ期	10/8(水)～10/24(金)	11/1(土)	11/11(火)
	高大連携生	10/8(水)～10/24(金)	10/31(金)	11/11(火)
	公募推薦生Ⅱ期 特別生Ⅱ期	11/12(水)～11/28(金)	12/6(土)	12/15(月)
	一般生Ⅰ期	1/7(水)～1/23(金)	2/3(火)	2/6(金)
	一般生Ⅱ期	2/13(金)～2/24(火)	3/5(水)	3/12(木)
短 期 大 学	特待生・指定校推薦生 公募推薦生Ⅰ期・ 特別生Ⅰ期	10/8(水)～10/24(金)	11/1(土)～ 2(日)※①	11/11(火)
	高大連携生	10/8(水)～10/24(金)	10/31(金)	11/11(火)
	公募推薦生Ⅱ期 特別生Ⅱ期	11/12(水)～11/28(金)	12/6(土)～ 7(日)※②	12/15(月)
	一般生Ⅰ期	1/7(水)～1/23(金)	2/2(月)	2/6(金)
	一般生Ⅱ期	2/13(金)～2/24(火)	3/4(水)	3/12(木)

※①11/1(土)生芸・音楽・文化 11/2(日)情報・食・幼児教育 ※②12/6(土)生芸・音楽・文化 12/7(日)情報・食・幼児教育

よくみる よくきく
よくかんがえて
十月一日から願書受付
附属幼稚園

本園は「よくみる よくきく よくかんがえて」をモットーに健やかで、明るく、素直な、かしこい子どもを育てるために、発達や個性、自ら伸びようとする態度を助長している。また、社会性を身につけるために、遊びの中での友だち関係も大切にしながら関わっていた。

送迎のためのスクールバスの運行、延長保育もある本園の今年度の願書受付は十月一日から。十月十九日は面接日となっている。

安全・安心・子どもの
耐震補強工事
年度内 100%完了へ

学生、生徒、園児を災害から守るため平成十五年から実施している本学部の耐震補強工事は本年度内に100%完了する見通しとなった。

全国の公立小中学校の校舎や体育館の耐震化はこの春の調査で、全国平均六二・三％、福島県平均五五・三％と公表されているが、本学部はすでに大学・短大・幼稚園が100％終了。高校と家庭で一部を残すのみとなり全体で八五％の達成率である。安全確保へ教育機関としてはいち早い対応であり、年度内には学部の校舎、関連建築の耐震化は100％を達成する。



敷地内で柱や基礎の耐震補強工事

パネル展示で担当教員が 教育内容を説明

大学／人間生活学科

人間生活学科は「生活総合」「福祉」「建築デザイン」の三つのコースで教育内容を示したパネルを用意し、担当教員がコースの狙い、特色、資格、進路等を丁寧に、わかりやすく説明した。



生活総合コースの授業風景

管理栄養士をめざし 学ぶ意欲を高める授業

大学／食物栄養学科

食物栄養学科では「人々の健康を守る管理栄養士の役割と実習」



管理栄養士の役割を聞き重要さを認識した参加者

個人面談に多くの参加者

短大／家政科福祉情報専攻

「手話によるコミュニケーションのとり方を楽しく学ぼう」と「パソコンでオリジナルカードを作ってみよう」の講座で模擬授業を体験した「手話」では付添いの父親が手本を示してみせるシーンもあり、和気あいあいの中で授業が進められた。



パソコンでオリジナルカードを作る参加者

糖尿病食を体験

短大／家政科食物栄養専攻

「糖尿病食の実験を体験してみよう」がテーマ。実習室で四名一組が実習台を囲み、糖尿病食を試作した。メニューは「さくらんぼサラダ風」。さくらんぼをゆで、野菜を切り、盛りつけを実習。在生は実習台に一人ずつ配置されて作業を補助した。懇談では先輩の体験談に我が身を重ね未来設計に思いを走らせていた。



保護者と一緒に糖尿病食を試食する

幼児教育の基本を学習

短大／幼児教育学科

幼児教育学科は、四つの教室に分かれて授業を体験。「リズム遊び」では、重ね歌の「かっこう」の模倣と「あしたも元気」を練習。造形体験では飛行機やジャンピンググライダーの玩具作りに挑戦した。このほか「保育の原点を考える」や「保育と心理学を考える」の授業では、子どもの心をどのように読み取る



歌、リズム遊びを体験する高校生

美の探求で貴重な体験

短大／生活芸術科

「彫刻」「デザイン」「絵画」「CG」の各教室をまわって在生は作品を鑑賞した。特に入試に関係する彫物デザインに興味深く眺め、教員の解説に耳を傾けていた。また、コンピュータ操作でCGアートを試作、貴重な体験を積んだ。



デザインの基礎学習で彫刻に耳を傾ける参加者

正規授業での 試験課題曲をレッスン

短大／音楽科

体験授業はピアノと声楽のレッスン。ピアノはモーツァルトのソナタK311が教材。受験課題曲のひとつとあつて受講者は熱心にメモを取りながら充実した時を過ごした。在生との懇談は県外からの参加者が多かったせいか、学生生活への質問が目立った。



個人レッスンの模倣を習得する高校生と保護者

知的で深い授業を体験

短大／文化学科

公開授業は「絵画に歴史を読む」の講義。江戸時代の絵画を現代と比較し学問的に分析する短大授業に高校生は知的驚きを示していた。一方、「縄文土器と対話する」授業では考古学の話から土器片の拓本をとる手作業を体験した。



保護者の方も夢中になっての拓本作り

同窓会に集う

笑顔がいっぱい 附属幼稚園

七月三十一日に附属幼稚園の同窓会が開催された。小学校一年生から中学生まで、懐かしい顔が二百十三名揃った。久しぶりの対面に園内は笑顔でいっぱい。紙粘土、和紙染め、描画コーナー等で制作したり遊んだり、砂場で裸足になって池や山作り、サッカード、ドッチボールなどを一緒に楽しんだ。遊んでいる時の顔は、幼稚園の時と同じ表情であった。



園児もどいて

家庭生活への関心高く

家庭科

家庭科への関心が高く、岩手、栃木、山形等遠方からの見学者が多かった。家庭科が対峙し、在生がが寮内を案内した。寮費や食事当番、門限、病気の対応等々の質問があったが、充実した設備、対策対策で保護者は納得した様子であった。



寮生活を体験しながら、寮の役割を聞く

特集 私たちの学園

はばたく日のために

オープン'08 キャンパス



在生から進学の体験談を聞く参加者

附属高校体験入学会開催

憧れの高校生活 想像から現実へ価値ある体験

本校の平成二十年度第一回体験入学会が、七月二十五日、二十六日の両日開催された。今年度で十一回を数えたが、年々参加者も多くなり、今回は郡山市内はもとより県内八十四校から中学生、教員、保護者ら合わせて四百三十二名を迎え、盛会のうちに終了した。



マーチングバンド部の練習風景で盛り上がる

特色と学校生活についての説明、さらに平成二十一年度の入学選考についての説明があった。次いで、大河原副校長・生徒会長・教員の挨拶があり、マーチングバンド部の歓迎演奏で式を閉じた。

開成の後、参加者は授業、部活動体験のグループと施設見学グループに分かれて高校生活を体験した。特に、音楽科、美術科、食物科の体験では、高校の授業の一端を身体で感じることができ、中学生は満足した様子であった。

また、スポーツ体験では、高校生の力あふれる演技や動きに圧倒される様子が見られた。

昼食後に開催された音楽科のミニコンサートでは、芸術性の高い演奏が披露された。その後の閉成式で、体験入学者を代表して安積中の池田成美さんと郡山六中の川嶋里沙さんから「実際に高等学校を見学し、想像していた高校生活が現実味のあるものになった。今回の体験入学会で学んだこと、感じたことをこれからの学習や進路選択に役立てていきたい」と爽やかな挨拶があった。

NEWS 学園ニュース

夏休みに 実力向上

短期大学部で夏季講習会

「生活芸術科」七月三十日から三日間開催した。美術系・進学希望の高校生四十名が参加した。講習は彫物デザイン、CGアート、彫刻、陶芸の三部門で専任教員から直接指導を受けた。

【音楽科】八月六日から八日まで開催。岩手、宮城県などからの参加者二十八名が八名の講師に付いて実技指導を受けた。最終日には認定テストがあり、認定者には入学者選考でその科目が免除される。

中国・四川大地震と ミャンマーサイクロンへ

一義援金十万円

大学と短大の学生会は学内で全学生と教職員に呼びかけ、募金活動を行った。その結果十万円の義援金が寄せられ、中国とミャンマーの被災地に五万円ずつ贈ることになった。福島民友愛の事業団へ寄託した。



授業体験を前に挨拶する生徒代表(食物科)

千百年前の竪穴住居火災跡

高大連携授業で貴重な発見

短大文化学科では高大連携の教育の一環として考古学発掘調査を実施しているが、今年も会津若松市笹山原遺跡No.16で行った。毎回新しい発見があるが、今年は平安時代の竪穴住居で火災があり、その焼失した跡がきわめて良い状態で見つかった。土器などの家財道具が持ち出されずに残っていたことで、ロクロを据えた穴と大量の粘土が散らばっていた。このことからこの住居が土器づくりの工房住宅であることがわかった。焼けた木材で放射性炭素年代を測定したところ1220±30BPという結果を得た。これは一九五〇年を基準として一九〇年から一二五〇年前の火災であった確率が六八・二％、つまり、約二二〇〇年前の不幸な火災も考古学にと

ってはきわめて貴重な発見となった。なんとも皮肉な話ではある。

【インスタントコヒール】日本インスタントコヒール協会主催の「第八回インスタントコヒールアイデア料理コンテスト」で本校食物科一年の仁井田真奈さんが入賞した。



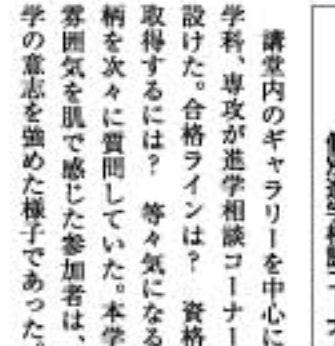
揚げ粉を前に学習を続けた学生 生徒代表



個人レッスンの模倣を習得する高校生と保護者



保護者の方も夢中になっての拓本作り



園児もどいて

んが入賞した。二千二百二十九点の応募作品から協会賞に選ばれた仁井田さんの作品は「ふるんつぷとぶとふ」。枝豆、豆乳、インスタントコヒール、ゼラチン粉、チョコレートが材料で、斬新さが審査員の目にとまった。

同時にヘルス＆ウェルネス賞にも選ばれ、ダブル入賞となった。

【県高体で優勝 インターハイ へ出場】高校バレーボール部。今大会は、昨年の高校体育大会決勝で敗れ、春の高校バレーでも悔しい思いをした相馬東高校との戦いでもあった。本校チームは、今大会を目標に計画的にチーム強化を進めベストコンディションで臨むことができた。その結果、伸び伸びとしたプレーで相手チームを圧倒し見事優勝した。



笑顔で受けたバレー部員(写真提供:福島民友新聞社)



守・愛・尊重を心に誓い文芸部員に込めた思いたち

【県総体で優勝】高校剣道部。第六十一回福島県総合体育大会剣道競技少年男女が七月五日、六日、郡山市で開催された。三年生にとっては最後の大会となるため、剣道部全員が心をひとつにして戦った。結果、見事優勝し「有終の美」を飾った。



守・愛・尊重を心に誓い文芸部員に込めた思いたち

【校内合唱コンクール】三年三組へ学校長賞。第三十四回校内合唱コンクールが六月二十五日開催され、今年も校内に美しいハーモニーが響いた。結果、学校長賞は三年三組。金賞は二年六組と三年四組が受賞した。

【三同窓会年次総会開催】三同窓会が親交深める。大学、短大、高校の三同窓会が八月三十一日、それぞれに平成二十年度総会を開き今年度の事業計画を決め、役員を改選した。

【発令】(四月一日) 大学／人間生活学科 佐藤篤史(講師) 教授 北川圭子(准教授) 短大／幼児教育学科 准教授 吉田若穂(講師) 准教授 滝田良子(講師) 退任(後援) 大学人間生活学科 佐藤篤史(講師) (六月三十日)

【訃報】門馬勝子さん(元大学教授) 六月二十日死去。八十一歳。田部井トキさん(元短期大学准教授) 九月十三日死去。

学校法人 郡山開成学園

平成十九年度 事業報告

一、法人の概要

- 法人名 学校法人郡山開成学園
 (創立昭和22年4月22日)
 ○所在地 福島県郡山市開成三丁目
 25番2号
 ○代表者 理事長 関口 修
 ○学務部長 関口 富左
 ○設置学校名
 郡山女子大学大学院
 開設：修士課程 平成4年4月
 博士(後期)課程 平成8年4月
 郡山女子大学
 開設：昭和41年4月
 郡山女子大学短期大学部
 開設：昭和25年4月
 郡山女子大学附属高等学校
 開設：昭和32年4月
 郡山女子大学附属幼稚園
 開設：昭和30年4月

- 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況(平成19年5月1日現在)
 (1)在籍総数 2,416名
 学則等収容定員 3,119名
 ○在籍数一覧表(参照)
 ○平成19年度修了生・卒業生数

- 現在までの修了生・卒業生数
 大学院 78名
 大学 673名
 短大 872名
 専攻科 25名
 高校 28名
 幼稚園 82名
 計 905名
 ○現役生・修了生・卒業生数
 大学院 3名
 大学 673名
 短大 872名
 専攻科 25名
 高校 28名
 幼稚園 82名
 計 905名
 ○役員・教職員(表参照)
 ○現役生(理事9人・監事2人・評議員21人)
 ○理事定数(9人以上12人以内)
 理事長 1名
 理事(常勤) 6名
 理事(非常勤) 2名

③ 院生・学生・生徒・園児在籍総数 [2,416名] 学則等収容定員 [3,119名]

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
修士課程	10	2	4	0	0	6	20
博士課程	3	0	0	0	0	0	9
合計	13	2	4	0	0	6	29

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
人間生活学科	60	10	31	32	33	136	270
食物栄養学科	80	10	80	87	95	352	340
合計	140	20	111	119	128	478	610

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
普通科	320	211	189	225	625	1,040	
音楽科	20	12	13	8	33	66	
美術科	20	23	19	15	57	60	
食物科	40	39	35	43	117	120	
合計	400	285	256	291	832	1,280	

④ 教職員

学校別	教員数	職員数	非常勤職員	合計
郡山女子大学	32名	24名	19名	75名
郡山女子大学短期大学部	52名	40名	59名	151名
郡山女子大学附属高等学校	66名	9名	22名	97名
郡山女子大学附属幼稚園	10名	1名		11名
計	160名	74名	100名	334名

平成20年度 学校法人郡山開成学園 学生・生徒・園児及び教職員在籍数一覧(5月1日現在)

・院生・学生・生徒・園児在籍総数 [2,416名] <学則・校則・園則収容定員数 3,029名>

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
修士課程	10	2	2	0	0	4	20
博士課程	3	0	0	0	0	0	9
合計	13	2	2	0	0	4	29

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
人間生活学科	60	10	28	30	31	131	220
食物栄養学科	80	10	74	80	86	350	340
合計	140	20	102	110	117	449	560

学部	入学定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	収容定員
普通科	320	184	203	177	564	1,040	
音楽科	20	10	10	13	33	66	
美術科	20	14	18	19	51	60	
食物科	40	31	38	35	104	120	
合計	400	239	269	244	752	1,240	

学部	入学定員	1年次	2年次	合計	収容定員
家庭科	70	56	50	106	140
食物栄養	130	144	138	282	260
幼児教育学科	150	153	162	315	300
生活芸術科	30	19	28	47	60
音楽科	50	22	27	49	100
文化学科	50	53	41	94	100
合計	480	447	446	893	960

専攻科	入学定員	1年次	2年次	合計	収容定員
文化専攻科	20	2	2	4	40

☆時間雇用職員 10名

学部	入学定員	1年次	2年次	合計	収容定員
家庭科	70	39	57	96	140
食物栄養	130	120	143	263	260
幼児教育学科	150	155	157	312	300
生活芸術科	30	17	19	36	60
音楽科	50	29	21	50	100
文化学科	50	45	51	96	100
合計	480	405	448	853	960

専攻科	入学定員	1年次	2年次	合計	収容定員
文化専攻科	20	3	2	5	40

二、事業の概要(当該年度)

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

○監事(非常勤) 2名
 ○評議員定数(21人以上25人以内) 17名
 ○評議員(常勤) 4名
 ○評議員(非常勤) 2名

生徒の自己啓発と自覚性を育成する
 という観点から、全教員が一丸となつて取り組んだ。
 ①学力向上のため、週2回(火・水)7校時目、国語・数学・英語の3科目について実施した。
 ②教員各位においては、自己の研鑽に努め、生徒への愛情を持った真摯な取り組みや、適格な指導に心がけ、また研修を通して教員としての質的向上に努めた。
 ③納付金の改定(申請)
 入学金120,000円を150,000円に改定
 施設充実費2,000円を3,500円に改定
 ○部活動全国大会出場
 ・第12回全国私立高等学校バレーボール選手権大会
 ・第54回NHK杯全国高校放送コンテスト
 ・第31回全国高等学校総合文化祭放送部門
 ・第1回声楽アンサンブルコンテスト全国大会(銀賞)
 ・インスタンテラメンオリシナル料理コンテスト2008東日本大会(最優秀賞)
 ・環境・循環型社会白書表彰紙給コンクール(最優秀賞・環境大臣賞)
 ・第16回全国高等学校文化連盟将棋新人大会
 (3)附属幼稚園
 本園は、「よくみる、よくきく、よくかかると」を教育目標として、教職員全員が一丸となつて、基本的な生活習慣を基本にして、園児一人一人にきめ細かい保育と集団での遊びにも力を入れて社会性が育つように保育を行なった。
 ①春・秋の遠足、参観、お泊り保育、どじょうつかみ、七五三、運動会、はくとわたしのさくひんてん、クリスマス会、おもちつき、節分のおあつまり、お別れ会、親子パーティー、発表会、園庭整備
 ②父母の講座、KGCミーティング
 ③避難訓練(2回実施)
 ④家庭祭
 ⑤新入生オリエンテーション、リーダー会議(月1回開催)
 ⑥新入生歓迎会、お食事会、七夕会、いも煮会、クリスマス会等
 ⑦避難訓練(春季・秋季の2回実施)
 ⑧大学図書館(高校分館を含む)
 ⑨本学園図書高大連携打合せ会(年2回開催)
 ⑩運営委員会(年6回開催)
 ⑪学園創立者関口育英奨学金制度発足
 毎年大学生10名、短大生10名、高校生10名(平成20年度より実施)
 (7)安全管理
 ①学生・生徒・園児の安全対策(警備の強化による安全確保) 32名の監視カメラ(大学・短大16台、高校8台、幼稚園4台、寮4台)を配置、また警備員の増員により、特に下校時や部活動帰りの学生・生徒の安全に努めた。
 ②交通安全防止(安全運転等の啓蒙)
 交通安全協会との連携のもと、ポスター掲示や教職員へのシートベルトの着用などの安全に対することについて周知徹底を図っており、交通事故等はなかった。
 ※施設関係
 本学園では、平成16年度から5ヶ年計画で建物の耐震補強工事を開始、本年度で4年目をむかえた。その間、附属高等学校普通教室棟、西棟、特別教室棟、大学・短大では62年館、

本館、家政学館、図書館など実施してきたが、本年度は附属高等学校特別教室西棟を行い学生・生徒等の安全確保を図ってきた。
 また、教育の場に相応しい環境造りをスローガンとして、教育の充実を図るべく様々な環境整備を行った。
 (1)土地・建物
 本部校地西側隣接土地・建物取得
 「土地」郡山市開成三丁目331-6、7、17 三筆計 237.00㎡
 「建物」郡山市開成三丁目331-6、7、17 木造瓦・亜鉛メッキ鋼板葺2階建 118.26㎡
 ①家庭寮1号館改築
 ②マルチメディアシステム、L教室更新
 ※理事会・評議員会
 ①理事会(5月31日、10月9日、2月8日)
 ②評議員会(5月31日、2月8日)
 ③監事監査(5月23日、10月9日、2月8日)
 ④会計監査(4月、5月、11月)
 ※教授会・その他会議等
 ①定例研究科委員会(月1回実施)
 ②定例主任教授会(月1回実施)(大学・短大合同)
 ③定例大学教授会(月1回実施)
 ④定例短大教授会(月1回実施)
 ⑤臨時教授会(選抜実施に係る合否判定)
 ⑥大学・短大生活課会議(月1回実施)
 ⑦就職対策委員会・担当者会議(月1回実施)
 ⑧附属高等学校職員会議(月1回実施)
 ⑨附属高等学校運営委員会(月1回実施)
 ⑩学園全体連絡会(月1回実施)
 ※家族会等
 ・家族会役員・常任委員会合同委員会(5月、6月、12月)
 ・家族会総会(5月25日)
 ・家族会方部別教育懇談会(開催時期は7月上旬から7月下旬)
 ・県北・田村・県南・郡山方部会(高校)：計4方部
 ・仙台・浜通・橋本・岩手・福島・会津・県南・郡山方部会(大学・短大)：計8方部
 ※学園創立61周年記念行事関係
 ○式典(学内) 4月20日(金)附属

幼稚園、22日(日)大学・短大・高校
○祝・学園創立61周年教養講座
〔演題〕大学・短大・高校「科学は変わる」
〔講演〕村上陽一郎氏(国際基督教大学・大学院教授)
○第61回学園オリビック 9月26日(水)
○第61回もみじ会 9月29日(土)、30日(日) 来場者2,809名
○平成19年度芸術鑑賞講座
・5月24日(木) 第156回芸術鑑賞講座 劇団四季ミュージカル公演「夢から醒めた夢」
・9月25日(火)・30日(日) 第157回芸術鑑賞講座 「佐藤忠良の世界」代表作品展
・10月10日(水) 第158回芸術鑑賞講座 N響トップメンバーによる「金管五重奏団コンサート」
・10月25日(木)・26日(金) 第159回芸術鑑賞講座 「ルイジ・ピオヴァーノ&イタリア・カンパニー合奏団」

学校法人郡山開成学園の平成十九年度決算は、東邦監査法人の監査を受け、理事会、評議委員会にて報告、決定されましたので、その概要をこの報告致します。

平成十九年度資金収支計算書において、資金収入合計は、8,106,106千円となり、予算より2,342,506千円上回りました。これは、主として補助金収入及び資産運用収入が見込みを上回ったこと、有価証券からの繰入収入や長期定期預金からの繰入収入によるものです。

資金支出は、人件費支出、設備関係支出は減になりましたが、教育研究経費支出と資産運用支出が予算より増加したことにより、予算より276,756千円増の4,189,506千円になりました。

この結果、次年度繰越金が3,916,599千円となり、予算より2,065,749千円の増になりました。

平成十九年度消費収支計算書において、消費収入合計より消費支出合計が大きいので、当年度消費支出超過額は675,092千円となりました。

その主な理由は、家庭寮1号館新築工事、高校特別教室西棟附属補強工事等により、基本金組入額が増加したことによるものであります。

従って、平成十九年度消費収支は、当年度消費支出超過額675,092千円、092千円になりましたが、平成十八年度決算の繰越消費支出超過額1,672,888千円を加え、翌年度繰越消費支出超過額は、2,347,980千円となりました。

一方、貸借対照表では、資産に関し

平成十九年度 決算報告

① 資金収支計算書

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。
平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(資金収入の部) (単位:円)			
科目	予算	決算	増減
学給金等特別交付金収入	1,855,000,000	1,834,779,364	20,220,636
手数料収入	30,000,000	34,944,517	3,455,483
寄付金収入	25,000,000	17,885,000	7,115,000
補助金収入	710,000,000	785,082,416	75,082,416
国庫補助金収入	345,000,000	408,288,000	63,288,000
地方公共団体(県)補助金収入	361,000,000	373,387,216	12,387,216
地方公共団体(市)補助金収入	4,000,000	4,506,100	506,100
資産運用収入	114,000,000	143,178,478	29,178,478
資産売却収入	100,000	0	100,000
雑収入	100,000,000	117,186,500	17,186,500
雑収入	247,000,000	250,486,929	3,486,929
前受金収入	880,000,000	880,300,700	300,700
その他の収入	358,878,383	2,572,709,543	2,213,831,160
資金収入前繰越金	△ 800,000,000	△ 784,266,948	15,733,052
前年度繰越金収入	2,894,121,737	2,894,121,737	0
資金収入の部 合計	5,783,800,000	8,106,106,106	2,342,306,106

(資金支出の部) (単位:円)			
科目	予算	決算	増減
人件費支出	2,281,400,000	2,280,480,729	10,919,271
教育研究経費支出	433,800,000	508,581,784	74,781,784
管理経費支出	143,000,000	151,400,362	8,400,362
施設整備費支出	981,000,000	983,788,057	2,788,057
設備更新費支出	91,000,000	24,882,269	66,117,731
資産運用支出	200,000,000	200,071,266	71,266
その他の支出	157,791,288	157,871,348	80,060
予備費	7,800,000	-	7,800,000
資金支出前繰越金	△ 14,201,288	△ 18,282,166	4,080,878
次年度繰越金支出	1,890,890,000	3,816,999,828	2,926,109,828
資金支出の部 合計	5,783,800,000	8,106,106,106	2,342,306,106

② 消費収支計算書

消費収支計算について、その主な内容をご報告いたします。平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

(消費収入の部) (単位:円)			
科目	予算	決算	増減
学給金等特別交付金収入	1,855,000,000	1,834,779,364	20,220,636
手数料収入	30,000,000	34,944,517	3,455,483
寄付金収入	25,000,000	23,070,960	1,929,040
補助金収入	710,000,000	785,082,416	75,082,416
国庫補助金収入	345,000,000	408,288,000	63,288,000
地方公共団体(県)補助金収入	361,000,000	373,387,216	12,387,216
地方公共団体(市)補助金収入	4,000,000	4,506,100	506,100
資産運用収入	114,000,000	143,178,478	29,178,478
資産売却収入	100,000	0	100,000
雑収入	100,000,000	117,186,500	17,186,500
雑収入	247,000,000	250,486,929	3,486,929
消費収入合計	3,113,800,000	3,186,324,664	74,724,664
基本金組入額合計	△ 685,800,000	△ 582,401,807	103,398,193
消費収入の部合計	2,427,800,000	2,603,922,857	186,122,857

③ 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容をご報告いたします。
平成20年3月31日現在

(資産の部) (単位:円)			
科目	本年期末	前年度末	増減
固定資産	8,887,173,957	11,157,992,086	△ 2,270,818,129
有形固定資産	8,280,448,466	8,549,875,086	△ 269,426,620
その他の固定資産	1,406,725,491	3,107,876,999	△ 1,701,151,508
流動資産	4,077,825,830	2,788,535,514	1,289,290,316
資産の部合計	12,965,000,000	13,946,527,600	△ 981,527,600
(負債の部) (単位:円)			
科目	本年期末	前年度末	増減
固定負債	1,187,847,387	1,232,313,076	△ 44,465,689
流動負債	798,882,832	780,906,269	△ 17,976,563
負債の部合計	1,986,730,219	2,013,219,345	△ 26,489,126
(基本金の部) (単位:円)			
科目	本年期末	前年度末	増減
第1号基本金	13,962,833,818	13,339,832,011	623,001,807
第4号基本金	248,000,000	248,000,000	0
基本金の部合計	14,210,833,818	13,587,832,011	623,001,807
(消費収支差額の部) (単位:円)			
科目	本年期末	前年度末	増減
前年度繰越消費収支差額	△ 2,347,980,980	△ 1,672,888,778	△ 675,092,202
消費収支差額の部合計	△ 2,347,980,980	△ 1,672,888,778	△ 675,092,202
(純資産の部) (単位:円)			
科目	本年期末	前年度末	増減
負債の部、基本金及び消費収支差額の部合計	12,965,000,000	13,946,527,600	△ 981,527,600

※号

正誤差	11,806,273,766	11,812,964,233	△ 6,690,467
繰越差額の部合計	5,637,854,701	5,384,800,768	253,053,933

(※正誤差＝資産－負債)

④ 財産目録総括表

財産目録について、その主な内容をご報告いたします。
平成20年3月31日現在

(単位:円)			
項目	金額	備註	備考
基本財産	8,280,448,466		
土地	181,266,30㎡	2,880,288,819	
建物	52,351.53㎡	4,543,962,679	
機械等	310点	100,048,588	
教育研究用機器器具	12,750点	390,887,288	
その他の機械器具	476点	3,333,841	
図書	146,082冊	402,908,578	
車両	5台	1,887,843	
建設費積立		6,823,400	
水道熱料金積立		5,057,083	
電気料		980,389	
電話加入権		2,916,488	
減価償却		5,475,198,489	
現金・預金	3,816,999,828		
有価証券	700,000,000		
貸付金	9,981,400		
貸付金(貸付金引当金)	900,000,000		
貸付金(貸付金引当金)(学費年金積立金)	186,817,239		
未収入金	101,199,543		
前払金	26,080		
その他の資産	610,000		
資産合計	12,965,000,000		
固定負債	1,187,847,387		
流動負債	798,882,832		
流動負債	798,882,832		
未払金	18,271,148		
前受金	880,300,700		
預り金	158,308,788		
負債合計	1,986,730,219		
繰引正誤差	11,806,273,766		

監査報告書

平成二十年五月二十八日
学校法人 郡山開成学園
監事 橋本 忠雄
監事 遠藤 武士

私たちは、学校法人郡山開成学園の監事として、私立学校法第三七条第三項に基づいて同学園の平成十九年度(平成十九年四月一日から平成二十年三月三十一日まで)における財産目録及び計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を通覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認いたしました。

第百六十一回芸術鑑賞講座

ルツェルン交響楽団演奏会

弦と管との融合 心に深く熱く



大編成のルツェルン交響楽団

スイスを代表するオーケストラ、ルツェルン交響楽団の演奏会が、七月九日、本学建学記念講堂で開催された。プログラムは大学・短大の部でシベリウス「悲しきワルツ」とブラームス「交響曲第一番ハ短調・作品68」。高校の部ではウエバーの「歌劇：魔弾の射手序曲」とベートーヴェン「交響曲第七番イ長調作品92」。初来日、十三都市の公演ツアーでメイン曲として用意した二大名曲を一気に披露した会場は本学園のみ。

七十五名の大編成による弦と管

との融合は重厚。時にはエネルギーに指揮をとるオラトリ・エルツ氏の巧みな音づくりで、名曲が心に深く沁み込んだ。

―エルツ氏 鑑賞態度を称賛―
終演後、関口学長と懇談したオラトリ・エルツ氏は「学生、生徒のしっかりとした聴き取りという姿勢が客席から団員に伝わり、演奏も高いレベルを保つことができた」と語り、本公演の成功を喜んでいました。そして百六十一回続いている芸術鑑賞講座に敬意を表した。

第百六十回芸術鑑賞講座
青年劇場公演「修学旅行」

青森県のある高校が修学旅行に出かけた沖縄の旅館での一夜の出来事を描いた青年劇場の舞台劇を鑑賞した。

原作は、二〇〇五年の全国高等学校演劇大会で青森中央高校が上演し、最優秀賞に輝いた作品。

高校生が直面している友だちとのこと、恋愛のこと、部活のこと、平和のことを修学旅行に託して描いた。

学園長を囲むお食事会

家庭寮

家庭寮恒例の「学園長先生を囲むお食事会」が六月二十五日本学つつじ館で行われた。

寮生の代表二十名は、やや緊張の面持ちで学園長先生をお迎えしたが、当日を心待ちにしていたとあって皆満面の笑顔で嬉しさを



食事を囲んで学園長先生と寮生たち

隠しきれない様子が見られた。美味しくて食事を頂きながらの自己紹介では、故郷の想いや将来への抱負を述べ、食事後のアトラクションでは工夫を凝らした余興を披露した。そして寮生は学園長先生と一緒に歌を口ずさむなど、心に残る楽しい時間を過ごした。

熱い演奏に感動 定期演奏会

高校音楽科・音楽部

七月十九日、本校音楽科・音楽部



全国大会入賞の実績を示す女声合唱

部による第三十七回定期演奏会が建学記念講堂で開催された。

音楽部による女声合唱では鈴木輝昭作曲「肖像画」を見事に歌い上げた。音楽科はピアノ、フルート、クラリネット、声楽のソロやアンサンブルでの演奏。オーディションで選ばれただけあってそれぞれが充実した演奏であった。学園オーケストラの「喜劇劇こうもり序曲」ではウィーンナールツの調べに会場内はしばし心を奪われた。

歯の健康で歯によい食事を発表

高校・食料科

六月四日からの歯の衛生週間にちなんで郡山歯科医師会主催「歯の健康フェア08」が六月八日、郡山駅前ビッグアイ六階の市民ふれあいプラザを会場に開催された。

今年初めて本校食料科三年生三十五名がフェアに参加し「歯によい食事 歯を丈夫にする食事」をテーマに、そしゃくによる唾液の分泌と食べ物の消化吸収について主に牛乳や乳製品、小魚類を使った簡単料理十品を料理見本とパネルの展示で紹介した。

約八百名の来場者は噛むことの大切さ、歯の健康を確認しながら生徒たちの発表に関心を示した。



作品を紹介する生徒たち

どじょうつかみ

夏にお別れ 附属幼稚園

プール終りの行事として行われている「どじょうつかみ」。今年も八月二十七日、園内プールに約千尾のどじょうを放った。年少組から年長組までのハクラス百四十九名が順番にプールに入り、逃げるどじょうを追いかけて歓声を上げた。



どじょうを追いかける園児たち

本学所蔵 紙上美術展 56

仲よしさんと

挿画 小杉小二郎

捉えている。

第百六十三回芸術鑑賞講座「小杉小二郎の世界」展が第六十二回もみじ会展として九月二十九日から十月五日まで本学で開催された。小杉氏は昭和十九年東京に生まれ、パリ市にアトリエを持つ洋画家であるが、氏独特の色彩と詩情あふれる作風は多くの方々の心を捉えている。



挿画・仲よしさんと

木もれ陽

七月、埼玉県川口市で中学三年生の長女が父親を刺殺した事件で、「人の顔色を見て生きるのに耐えられなかった。悪くなった期末テストの成績が親に分かると、自分も、怒った親も嫌な思いをする。その前に家族全員を殺して自殺すればいいと考えた」と述べているという。彼女は未だ十五歳である。

大江健三郎の小説「セブンティーン」(一九六一年)は、一人の清純な男子高校生が、十七歳の誕生日を迎えた日より政治的暴力に傾いて凶暴化していく物語であった。又、英国のグレアム・グリーンの小説「プライトン・ロックス」(一九三八年)の主人公も十七歳で、悪の化身ともい

べき少年の行動を凝視して行くこの物語は、神の前での善悪や永遠性の問題を追究する内容であった。

私たちは、フィクションを読み、惨たらしい殺傷や罪や罰の底知れぬ恐怖しさを想像することで、現実世界ではそれらを実行しないものなのである。そうして、この上なく尊い命を生誕大事にするのである。アリストテレスのカタリシス論の如く、悲劇のフィクションに傾いて、涙を流したり恐怖を味わたりして自らの心のしこりを浄化していくものなのである。

心の闇に宿る苦しいわだかまりは、誰しもが持っている。未だ経験したことのない物語を「想像する力」、その「力」をもってすれば、この現実世界のなかで必ずや解けるはずである、と若者に叫びかけたい。

(均)